

2008年10月20日

## ExpressGenotyping法を用いた薬剤応答性SNPs候補の探索研究に関する 武田薬品との契約締結について

株式会社ハプロファーマ(徳島市 代表取締役社長:根本靖久 以下、ハプロファーマ)は、このたび武田薬品工業株式会社(以下、武田薬品)との間で、ハプロファーマが保有する独自技術であるExpressGenotyping法を用いた薬剤応答性SNPs(\*1、\*2)候補の探索に関する契約を締結いたしましたので、お知らせいたします。

ExpressGenotyping法(\*3)は、東京大学先端科学技術研究センター油谷浩幸教授らのグループとハプロファーマの共同研究によって開発された、薬物の体内動態・効果・副作用に影響を与える薬剤応答性SNPs候補を効率的かつ網羅的に抽出する独自技術です。

ハプロファーマは、当該技術が武田薬品による、薬剤応答性SNPs候補の探索および遺伝情報に基づいた副作用あるいは適正投与量の予測を可能とする個の医療の実現に、大いに貢献できるものと確信しております。

(\*1) SNPs…一塩基多型(Single Nucleotide Polymorphisms)の略号で、ヒトのゲノム塩基配列中に数百万個以上認められる一塩基の置換・挿入・欠失を意味し、スニップスと呼ばれております。集団内で1%以上の頻度で認められるこのような一塩基の変化を、1%以下の頻度で認められる変異と区別して、多型と称しております。

(\*2) 薬剤応答性SNPs…副作用の出やすさ・出にくさ、薬の効きやすさ・効きにくさなどの薬剤応答性には個人差があります。この個人差をもたらすSNPsのことを薬剤応答性SNPsといいます。薬剤応答性SNPsには、薬剤の吸収・代謝・排泄に関わる遺伝子や、薬剤の活性化・不活化に関わる遺伝子に存在するSNPsが挙げられます。そのようなSNPsの個人差により、同じ量の薬剤が投与されても、効き方や副作用の現れ方に大きな違いが現れてきます。

(\*3) ExpressGenotyping法…比較的少数試料を用いて、対象薬剤に対する薬剤応答性SNPs候補を探索することを可能とする先端技術です。

### 【株式会社ハプロファーマの概要】

社名: 株式会社ハプロファーマ (HaploPharma Inc.)

設立: 2004年3月12日

代表取締役社長: 根本靖久

所在地 本社: 徳島県徳島市佐古

東京事務所: 東京都中央区八重洲

沖縄研究センター: 沖縄県うるま市州崎

役職員数: 10名

資本金：207 百万円

事業領域：最先端ゲノム解析技術を活用した医薬及び診断薬の研究開発

URL：<http://www.haplopharma.com>

株式会社ハプロファーマは2004年に設立された創薬基盤型バイオベンチャーです。沖縄県うるま市にある沖縄研究センターを拠点として、個の医療を推進する目的で、医薬品の副作用や有効性の個人差を予測するバイオマーカーの研究開発を行っております。現在、沖縄研究センターでは、ExpressGenotyping法を実施するとともに、2005年に内閣府と沖縄県とが主宰するバイオベンチャー支援事業に採択された「バイオバンク沖縄」の構築・運営を琉球大学との共同により実施しております。バイオバンク沖縄は、沖縄県民の臨床試料や臨床データを収集し、これを用いて健康長寿や生活習慣病のバイオマーカーを探索し、生活習慣病の治療や予防に有効なヘルスケアプログラムの開発を目指した研究を琉球大学との共同により進めております。その他に、遺伝子診断用バイオマーカーの探索やそれを用いた診断薬の研究開発を、自社単独または臨床診断機器メーカー等との共同により積極的に進めております。

連絡先 株式会社ハプロファーマ 経営管理部 TEL：03-5204-7016